

# 周産期うつ病とインターネットヘルスリテラシーに関する大規模WEBアンケート研究



柴田綾子<sup>1</sup>, 重見大介<sup>2</sup>, 丸尾伸之<sup>1</sup>

1. 淀川キリスト教病院 産婦人科
2. 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学

**[Objective]** To investigate the relationships between Internet health literacy and health information acquisition behaviors and anxiety regarding perinatal depression among expecting and nursing mothers.

**[Methods]** Web-based survey was conducted anonymously between November 19, 2018, and November 30, 2018. The participants are users of “Luna Luna Baby” (MTI Co Ltd), an app service for expecting and nursing mothers. All participants consented to the research.

The Japanese version of eHealth Literacy Scale was measured. All statistical analyses were performed using Stata software, Version 15.0 (StataCorp LP, College Station, TX). This study was approved by the Ethics Committee.

**[Results]**

Valid responses were received from 2,979 individuals (1,987 pregnant women, 969 post-childbirth, and 21 others). More than 50% of participants felt they have a risk of developing perinatal depression. Most information about the perinatal depression was acquired from websites during pregnancy (40.1 to 52.0%), while only 15.0% came from the medical institutions. A high-eHealth Literacy Scale group had a significantly higher awareness about postpartum depression (74.7% vs 48.7%), and fewer feelings that they were developing perinatal depression (47.4% vs 58.5%).

**[Conclusion]**

The result suggest that medical institutions may not provide adequate information about the perinatal depression during pregnancy. Accurate knowledge of the disease might alleviate the anxieties to the perinatal depression.

**【目的】**周産期うつ病に関する妊産婦のインターネットヘルスリテラシー(IHL)と情報取得行動の関連を調査する

**【方法】**2018年11月19日～2018年11月30日に妊産婦アプリ・サービス『ルナルナベビー』(株式会社エムティーアイ)使用者を対象に、周産期うつ病に関して無記名のアンケート(約30項目,所要時間約5分)を行った。eHealth Literacy Scale (eHEALS)日本語版(2011)を使用し、インターネットヘルスリテラシーと周産期うつ病に関する情報取得行動と不安の関連について検討した。不安に関しては“自分が「産後うつ」になる可能性はどれくらいあると思いますか”と質問し0,10-30%,30-50%,50-70%,70-90%,90-100% の選択肢を提示した。本研究計画は筆頭著者の所属する病院の倫理審査委員会にて承認され、著者および参加者への金銭・物品の授与は行われていない。

**Table1. Research participants (n=2956)**

Age (years old)	Pregnant women (n=1,987)				Postpartum women (n=969)			
	Gestational week				Duration after child birth			
	≤14	15 - 27	28 - 36	37≤	2 week	6 month	1year	1year≤
<b>Total</b>	807 (40.1)	632 (31.8)	420 (21.1)	128 (6.4)	70 (7.2)	688 (71.0)	195 (20.1)	16 (1.65)
≤ 19	11 (44.0)	8 (32.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	1 (16.7)	5 (83.3)	0 (0)	0 (0)
20 - 29	314 (41.1)	236 (31.7)	150 (20.1)	45 (6.0)	28 (8.2)	254 (74.1)	57 (16.6)	4 (1.2)
30 - 39	453 (39.5)	368 (32.1)	248 (21.6)	79 (6.9)	40 (6.9)	404 (69.4)	127 (21.8)	11 (1.9)
40 ≤	29 (42.0)	20 (29.0)	18 (26.1)	2 (2.9)	1 (2.6)	25 (65.8)	11 (29.0)	1 (2.6)

**【結果1】** 研究参加者について (Table1)

・有効回答2979名(妊婦1987名,産後969名,その他23名)  
その他23名を除いた2956名を解析した

・年齢

19才以下31名,20～29才1088名,30～39才1730名,40才以上107名

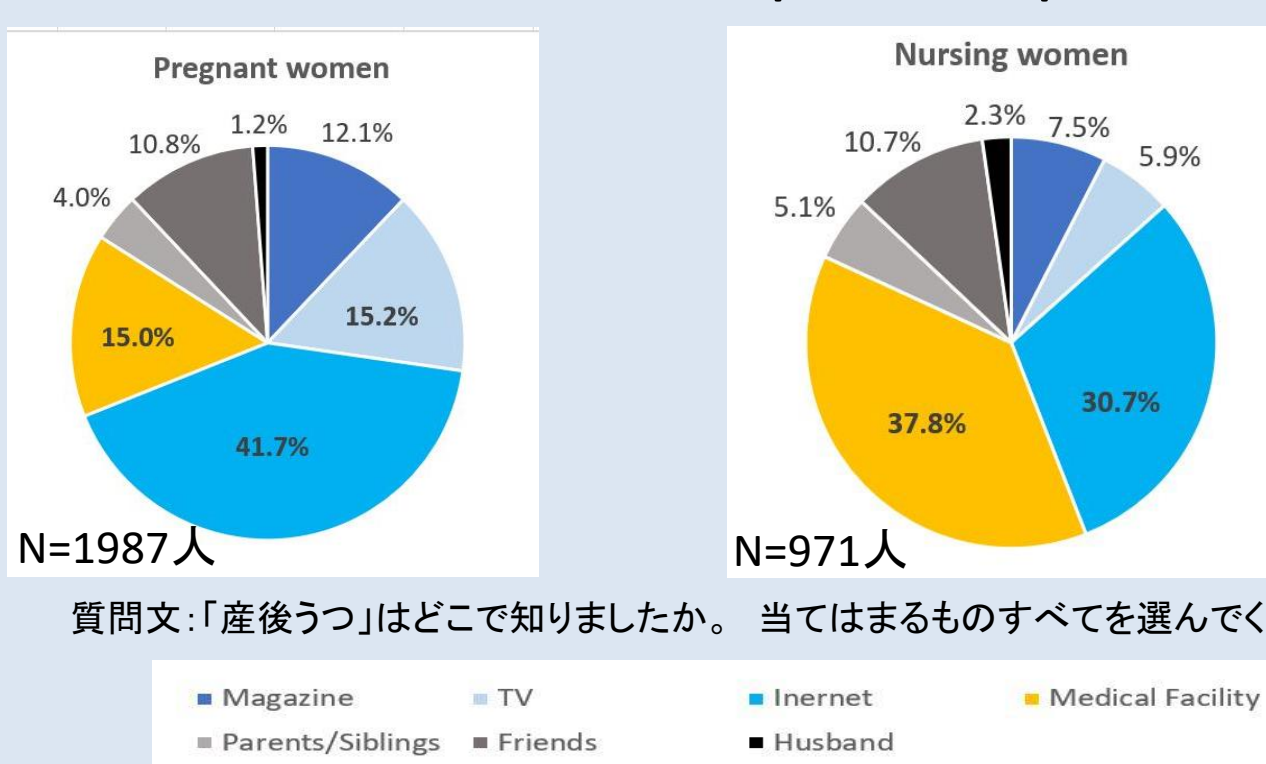
・分布

初産婦1239名(39.7%)、褥婦は産後6ヶ月以内78.2%

・職業

会社員が1番多く(39.9%)、専業主婦(31.7%)、パート(14.9%)と続いた

**Figure2. Information source about the perinatal depression**



**【結果2】** 周産期うつ病に関する情報源について

質問:「産後うつ」はどこで知りましたか。当てはまるものすべてを選んでください。

・妊娠中(Figure2)

インターネットからの情報取得が最多(41.7%)  
医療機関からの情報は15.0%のみであった

・産後(Figure2)

医療機関からの情報取得が最多(37.8%)  
インターネットからの取得は2番目であった(30.7%)

・インターネットヘルスリテラシー(eHEALS)との関連性

インターネットヘルスリテラシー(IHL)が高い群では産後うつ病に関する認知度が有意に高い(74.7% vs 48.7%)

産後の医療機関からの情報取得率が有意に高い(Figure3)

TVやWebsiteからの情報取得率が低い(Figure3)

「周産期うつ病になるリスクが高い」と感じる率が低い(47.4% vs 58.5%)(Figure4)

50%近い女性が「自分が周産期うつ病になるリスクが高い」と感じていた(Figure4)

**【考察】**

1. 妊娠中や産後の女性の半数近くが「周産期うつ病」に対する不安を感じている。
2. 周産期うつ病に関する情報は、妊娠中はインターネットからの取得が半数近くを占めており、医療機関からの情報提供が十分にされていない可能性がある。
3. インターネットヘルスリテラシーが高い群では、疾患に対する認知度や医療機関からの情報を得る率が高く、疾患への不安が軽減されている。

**【結論】**

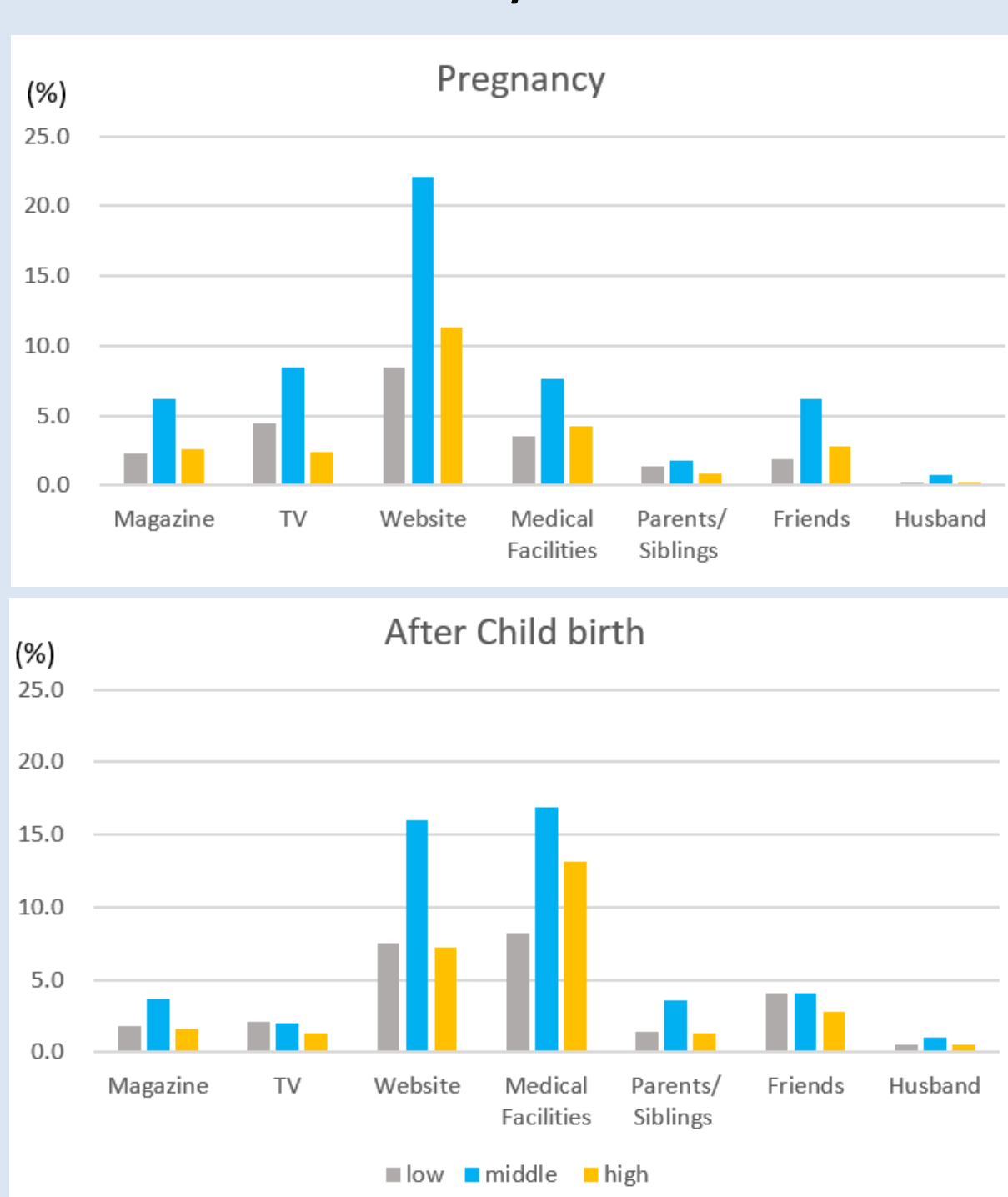
周産期うつ病に対する不安を抱えている妊産婦は多い。

周産期うつ病に関する情報提供が、妊娠中に医療機関で十分に行われていない可能性が示唆された。

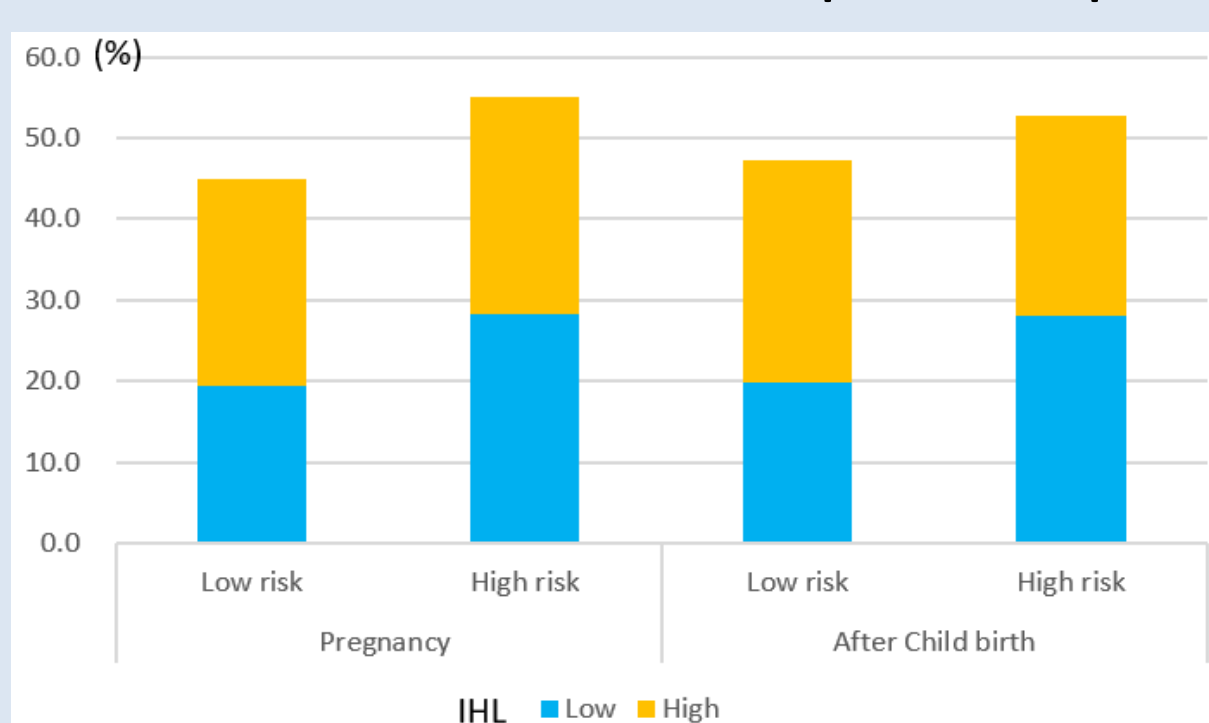
周産期うつ病の疾患に対する正確な知識を持つことで不安が軽減される可能性が示唆された。

参考文献 eHealth Literacy Scale (eHEALS) 日本語版(2011) : 8項目の選択肢質問表  
日本人3000人を対象にしたWEB調査において、eHEALSの中央値は24.0点(19.0点～28.0点)  
eHEALSの点数は、喫煙、飲酒、運動、食事などの健康関連行動と相関したことが報告されている。  
Mitsutake S et al. J Med Internet Res 2016;18(7):e192

**Figure3. Internet Health Literacy and Information source**



**Figure4. Internet Health Literacy(IHL) and Self-estimation of the risk the perinatal depression**



研究協力 株式会社エムティーアイ

第55回日本周産期・新生児医学会学術集会

利益相反状態の開示

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

筆頭演者氏名: 柴田 綾子

所属: 淀川キリスト教病院 産婦人科

発表者連絡先: 柴田綾子 [sibata700@gmail.com](mailto:sibata700@gmail.com)